

中川企業 海外展開のツボ

メキシコは日系の自動車メーカーが現地生産の投資を発表した2011年以降、部品メーカーを中心に日系企業の進出が加速しています。12年の日本からメキシコへの直接投資額は18.1億ドルと過去最大を記録しました。ただ約6割がメキシコに製造拠点を設けるのは初めてで、治安対策に力を入れています。

メキシコは政治が比較的安定している一方、治安には不安を抱えています。進出企業にとって、とりわけ

深刻な問題は、米国との国境付近など治安の悪い地域で多発するトレーラー・トラック強盗です。積載貨物だけでなく、車両ごと強奪されることもあり、体力の劣る中小企業には死活問題に結びつきかねません。

物流のリスクを回避する最も有力な方法は「自社で物流債務を負わない」ことです。具体的には部品代に物流コストを含めず安く売る代わり

メキシコでの車両強盗対策

日本総合研究所 総合研究部門 研究員 大森 充氏

に、買い手や商社側の車両が複数の荷主を回る「ミルクラン(巡回集荷)」方式を活用します。ただ、納期の管理が難しく、実現には買い手や他の荷主の同意も必要になります。

一方、「自社で物流債務を負う」場合は損害保険の活用が柱になります。保険の適用範囲に限りがあるため積載貨物が高額な時は警備車両を輸送車と一緒に走らせることもあり

ます。運転手と強盗との内通を防ぐため、運行経路や積載貨物の内容を配送直前まで運転手に伝えないなどの工夫も必要です。

長く国家独占が続いた石油やガス産業が民間企業に開放されたこともあり、日系企業の進出は今後も続くと予想されます。事務所や工場だけでなく、輸送時も含めた総合的な治安対策をすることが重要です。

トレーラー・トラック強盗に対する対応例と留意点

自社で物流債務を負わない	
ミルクラン(巡回集荷)の活用	→ 買い手の意向次第 → 売り手の納期管理が難しい
自社で物流債務を負う	
損害保険の活用	→ 保険の適用範囲に注意 → 保険分のコスト増
警備車両の帯同	→ コストの大幅増
直前まで経路や貨物を運転手に伝えない	→ 物流企業側の手間や負担を売り手が負う